

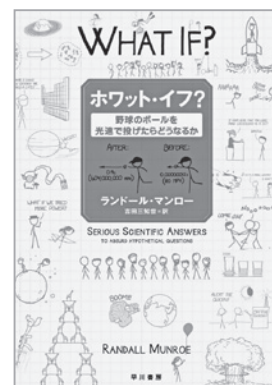
『ホワット・イフ？』

：野球のボールを光速で投げたらどうなるか』

ランドール・マンロー 著 吉田三知世 訳 早川書房 1,500円(本体)

突拍子もない質問に真摯に向き合う

会員 小林 英了 (61期)



本書は、著者（元NASAの科学者）のウェブサイトに掲載された突拍子もない思いつきの質問に対して、物理学や数学を駆使して真面目に（ときにはユーモアを交えて）回答するというものであり、ニューヨークタイムズのベストセラーで1位にランキングされ、全世界で100万部販売されている本の邦訳版である。

その販売実績もさることながら、「野球のボールを光速で投げたらどうなるか」というサブタイトルがまず目を惹く。常識とか社会通念とかいったものに縛られている私などは到底思いつかない。そのような質問を子どもから投げかけられれば、「そんなことは無理なので考えてもしょうがない」と突き放してしまいそうだが、本書の著者はそうではなく、物理学や数学を駆使して検討し、ときには専門家に問い合わせるなどして、突拍子のない質問に真摯に向き合っているところが面白い。

例えば、上述の「野球のボールを光速で投げたらどうなるか」という質問に対しては、投球の直後にボールの手前で核融合が生じて爆発が広がり、最終的にはあたり一面が吹き飛んでしまうという想像し難いことが生じるとのことであるが、回答に至るまでの物理的なプロセスが、専門知識を有しない我々にもある程度理解できるように書かれている。

本書で説明されている物理的現象の全てが正しい

かどうかは保証の限りではないし、また、不都合な前提条件（上述の例でいえば、そもそもボールが壊れないかどうか）はある程度無視されているものの、それらを無視すれば、読み物としては面白いものとなっている。そして、本書にちりばめられたユニークなイラストと、回答の最後に加えられたジョークが、本書を飽きないものとさせている。

本書では、ほかにも多くの突拍子のない質問と回答が記されており、「どれくらいの高さからステーキを落とせば、地上に到達したときにちょうど食べごろに焼けるのか」「地球にいる人間全員が一斉にレーザポインタを月に向けたら月の色は変わるのか」「各元素を集めてキューブ状にして、それを並べて周期表を作ったらどうなるか」「コップ1杯の水がいきなり、文字通り半分空になったらどうなるか」といったところが、個人的に興味深かった。

本書に書かれていることは、あくまで思考実験であって現実には起こることはないし、日常生活に役立つものではないし、もちろん法律業務にも役立つことはないが、仕事に疲れたときに、息抜きにちょっと手に取ってみるのも良いかもしれないし、子どもの想像力をかき立てる素材として読ませても良さそうな気がする。本書に飽き足りない方は、著者のウェブサイトへアクセスして更に楽しんでいただきたい。もちろん英語であるが。